

アルミ原料の需給はなおタイトか

自動車輸出減少、今後注目

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート②



■概況
十一月前半は世界銀行、二〇一四年の中国の経済成長率を七・四%、二〇一五年を七・二%に下方修正。九月の中国HSBC

C製造業PMI改訂値は五〇・二に下方修正。九月の米ISM製造業景況指数は五六・六に低下(予想は五八・五)。八月の独鉱工業受注指数は前月比五・七%低下、予想の二・五%低下を下回るなどのマイナスマテリアルから下落する場面もあったが、九月の中国製造業PMIは五一・一、市場予想の五一を上回ったこと、九月の中国輸出は前年比一五・三%増加、予想は一三・五%増加。輸入は七%増、事前予想の二・四%減を大きく上回ったことからLMEアルミ相場は反発、十月十五日時点で一、九二二ドル(現物後場買値)と月初価格から一七ドル上げの前半締めとなった。

後半は十月のNY連銀製造業景況指数は六・一七と事前予想の二〇・二五を大幅に下回った事(前月は二七・五四)。中国の九月の生産者物価指数(PPI)は二年七カ月連続で低下し過去最長だったことなどマイナスマテリアルもあったが、中国人民銀行が景気下支えで中堅銀行六行に二、〇〇〇億元の資金を注入するとの報があった。HSBCが二十三日発表した中国の十月の製造業購買担当者景況指数(PMI)速報値は五〇・四となり、九月確報値(五〇・二)より〇・二ポイント改善したこと。欧州銀のストレステストで不合格は二五行、資本不足は民間予想を大幅に下回ることなどを好感。十一月四日現在LMEアルミは(現物後場)二、〇六六ドルと後半スタート価格から一六九ドルUPしてのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)
一〇六・八五→一〇二・一七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比二・六%減の八五万一、〇五一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比九・一%減の二四万〇、五一一台。

◆新設住宅着工戸数

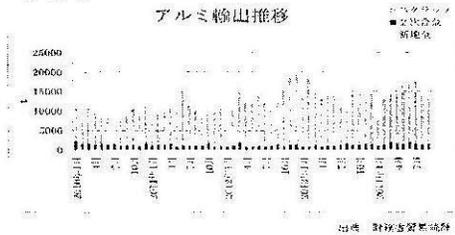
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一四・三%減の七万五、八八二戸であった。

◆貿易関連指標

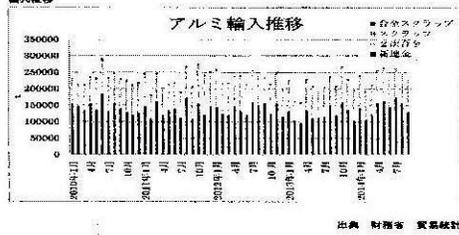
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新

地金が前年比七三・三%減の五五七、二次合金が三七・八%増の一、三六四七、スクラップが三・三%減の一、二八六三。アルミ輸入は新地金が前年比七・九%増の二万九、五〇五七、二次合金が一三・八%増の九万六、四四八七、スクラップが四一・五%増の一、〇四九七、合金スクラップは七九・七%増の六、七八一七。

	7月	8月	9月
輸出	145 t	109 t	51 t
前年比	+7.8%	+18.5%	-79.2%
二次合金	1518 t	1154 t	1364 t
前年比	+28.5%	-26.2%	+37.8%
スクラップ	16559 t	1万2854 t	1万2303 t
前年比	+44.1%	+9.6%	-3.3%
輸出増移			



	7月	8月	9月
輸入	17万3122 t	15万6563 t	12万9505 t
前年比	+50.9%	+5.3%	+7.8%
二次合金	8万8879 t	9万1306 t	9万6448 t
前年比	+3.4%	+4.9%	+13.8%
スクラップ	11114 t	1103 t	1049 t
前年比	+38.8%	+8%	+41.5%
合金スクラップ	5010 t	5713 t	6781 t
前年比	+42.3%	+32.9%	+79.7%
輸入増移			



■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比五・二%増の一七万六、三九八七。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・三%増の七万〇、六〇八七であった。(八面へ続く)

〔四面より続く〕

■概況

九月の四輪車生産台数は八万五千二百一十台で、前年同月の八万七千七百四十四台に比べて二万五千二百一十六台の減少となり、三カ月連続で前年同月を下回した。

九月の車種別生産台数は前年同月比は次の通り、乗用車七万四千二百七十七台で三万〇八十五台・四・一％の減少となり、三カ月連続のマイナス。このうち普通車は四万二千三百三十三台で二、四三三台・〇・六％の増加、小型四輪車は一万五千〇七十四台で三万四千九百八十七台・一八・八％の減少、軽四輪車は二万四千〇一十七台で一、七〇四台・一・二％の増加。

トラック二万二千六百六十六台で六・六〇六台・五・六％の増加となり、一カ月ぶりにプラス。このうち普通トラックは五万六千九百六十三台で四、四六五台・八・五％の増加、小型四輪車は二万〇八千七百四十二台で六、六一台・九・四％の増加、軽四輪車は三万五千八百四十二台で五、二〇台・一・四％の減少。バス一万二千六百三十三台で一、五五二台・一・三・四％の増加となり、二カ月ぶりにプラス。このうち大型は八〇九台で四六六台・五・四％の減少、小型は一万二千三百五十四台で一、五九八台・一・四・九％の増加。

九月の国内需要は五万八千七百四十四台で、前年同月比〇・八％の減少であった。うち乗用車四万三千三百一十二台で前年同月比三・二％の減少、トラック八万五千六百一十一台で前年同月比三・二％の増加、バス一、三四〇台で同一・九・七％の増加。

輸出は前年同月比三・三％の減少(実績)。

十月の国内自動車販売台数(軽除)は二万四千〇、五一一台で前年比九・一％減と、三カ月連続のマイナス。うち乗用車一・三％減、貨物六・六％増、バス八、二五・四％増。九月の住宅着工戸数は七万五千八百八十二戸。前年同月比一四・三％減となつた。また、季節調整済年率換算値では八八・〇〇万戸(前月比四・一％増)で、二カ月連続増。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・三％増の七万〇、六〇八七であった。出荷は〇・四％減の七万、五五七トンド、八カ月連続のマイナス。内、出荷先は鋳物五・三％減、ダイカスト〇・七％増、板六・一％増、押出一・〇％減、鉄鋼二〇・八％増、合金地金メーカ一四・七％減。

アルミ圧延・押出品生産数は五・二％増の一七万六、三九八ト。三カ月連続のプラス。

板類に関して

①缶材三万四千四百九十九ト(〇・一％減)ヒール系鉄料の出荷量が減少した反面(七・七)九月期の出荷量・前年同期比二・一％減、ポトル缶(主)トール缶が好調であったこと等により、缶材は微減。

②自動車二万二千、一〇九ト(二・一％増)トトラック向けが好調トトラック・バス向け・前年同月比九・四％増

③輸出一、二八、二六三ト(二・九％増)海外関連工場への系条輸出の増加等により、六カ月連続のプラス(四月・二・三％増、五月・二・〇％増、六月・三・五％増、七月・三・四％増、八月・二・五％増、九月・三・〇％増、押出類に関して)

①建設四万二千、七四四ト(一・二％減)新設住宅着工戸数の減少が影響(八月の着工戸数・七万三千七百一十戸、前年同月比二・五％減)

②自動車一、九〇三ト(二・一％増)トトラック向けが好調トトラック・バス向け・前年同月比二・五％増。

輸出は新地金が前年比七・三％減の五、五七ト、二次合金が三七・八％増の一、三六四ト、スクラップが三・

三％減の一、二八六ト。

輸入は新地金が前年比七・九％増の二万九、五〇五ト、二次合金は二・三・八％増の九万六、四四八ト、スクラップは四一・五％増の一、〇四九ト、合金スクラップは七九・七％増の六、七八一ト。

〔見通し〕

・自動車は生産が前月に引き続き減少の二・六％減。また十月の国内販売台数も前年比九・一％減と悪化。販売の減少が続くメーカもそれに伴い生産を調整した。輸出もついに三・三％減と悪化。今後の動向に注目したい。

・新設住宅着工戸数は前年比一四・三％減。季節調整済年率換算値で八八万戸(前月比四・一％増)消費税前の駆け込み需要も終了。七カ月連続減少。ただ季節調整済換算では二カ月連続のプラスであり、今後の動向に期待する。

・二次合金の生産は自動車生産が減少するも小幅UP。出荷は相変わらず減少。今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないとの見解。

・アルミ圧延・押出品生産数、前月の続き、押し出しはよくないものの、板がポトル缶トール缶、条が輸出で増加しており、今後ともこの傾向が続くとの見解。

・輸出 世界的に需要の多い自動車用の二次合金が、不安も伴って増加。

輸入 減少はするものの自動車生産台数の高止まりをよけるの慢性的な原料不足から全増増加。不安は当面続くと言及しており前記の傾向は続く。以上を踏まえアルミニウムスクラップ需給は引き続きタイトとの見解。

【価格・為替予想】
今日は日銀の金融政策に伴う株、為替の動向及び、米FRBの出口戦略に左右される。
日銀の黒田総裁は先月、金融政策決定会を聞き、マナタリペースの増額目標を現行の年間六〇兆七〇兆兆円から、年間約八〇兆円増やす追加緩和策を決めたこと、日経平均は一昨七年ぶりと同一二万七、〇〇〇円台まで上昇、ドル円も六年ぶりの一一四円台となった。ただ数日間の相乗効果もあり、またFRBの量的緩和終了報道との相乗効果も考えられ、一時的な上昇、円安はないのではなかろうか。
量的金融緩和の第三弾(QE3)に伴う資産購入を十月には終了したが、ゼロ金利政策について、量的緩和終了後も「相当な期間、維持する」のが適切だとの表現を据え置いた。金融政策の方向性を示す時間軸「フォワード・ガイダンス」を変えず、利上げを慎重に判断する姿勢を改めて強調したことから急激な米景気後退はないとの見解。
それらを踏まえた十一月のアルミ価格は日銀の追加緩和策からの波及効果でさらなる株価の上昇と円安が続く。米FRBの緩和終了を好感する形で米経済指標が堅調に推移した場合、十月高値の二、一〇〇ドル、二〇〇ドルを予測し、いずれの場合も二、一〇〇ドル下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の一、九〇〇ドル。
為替は米FRBの量的金融緩和の第三弾(QE3)に伴う終了と、日銀の追加的金融緩和策の相乗効果で六年ぶりの一一四円台まで下落したが、欧州懸念に伴うユーロ安、ドル高、円安への新規材料難、急落からの修正もあり、対ユーロのドル高から上値は九月高値の一〇七円台、下値は変化なければ、節目の一、一五円との予測(TTM)。
メーカースクラップ購入価格は五〜一〇円高と予測している。